

## 本書の構成

本書は、国土交通省が実施した「バリアフリーな街づくりに資する交通施設整備計画に関する調査」（以下、「本調査」とする）の成果であり、太田勝敏東京大学教授を委員長とする委員会の指導のもとでとりまとめられたものである。本調査の調査体制・調査方法については、巻末に参考資料として掲載している。

本書は以下の4章より構成される。

### 第1章 交通と街づくりのバリアフリー化の必要性と現状

バリアフリー化を検討する際の基本的な視点を整理し、本書の中心的課題である「交通と街づくりが一体となったバリアフリー化」の必要性を明らかにする。

また、バリアフリー化の検討にあたっての基礎的な情報として、高齢者・障害者等の現状、バリアフリー化促進施策の現状を整理する。

### 第2章 交通と街づくりのバリアフリー化に関する利用者ニーズ

本調査で実施したアンケート調査・グループインタビュー調査に基づき、高齢者・障害者等の基本的な移動ニーズの調査結果を紹介するとともに、地方自治体等が利用者ニーズを把握する際の参考とするため、本調査における調査実施方法とその考え方を紹介する。

### 第3章 交通と街づくりのバリアフリー化に関する取り組み事例

地方自治体等が交通と街づくりのバリアフリー化に取り組む際の参考事例として、交通施設等のバリアフリー化に関する事例および移動手段の確保に関する事例として、計11事例を紹介する。ここで紹介する事例は、バリアフリー化に関する取り組み内容についても注目すべきものが多数含まれているが、高齢者・障害者等の参画のあり方、NPO・ボランティア等を含む各関係主体の役割分担・連携のあり方等に注目して抽出した事例が中心となっている。

### 第4章 交通と街づくりのバリアフリー化に関する方策

本調査で実施した住民へのアンケート調査・グループインタビュー調査、都道府県・市町村へのアンケート調査、事例調査等の結果に基づき、交通と街づくりのバリアフリー化に向けた課題を整理した上で、地方自治体等が取り組む際のプロセス（過程）に即して、推進体制のあり方や交通施設整備・交通サービス提供に関する具体的方策等を提案する。